

教育委員会第2回定例会議 会議録

1 日 時 平成23年2月16日(水)

開会 13時30分

閉会 15時15分

2 会 場 金沢市本庁舎 4階401会議室

3 出席委員(5名)

教育委員長 佐藤 秀紀

教育委員 柳下 道子

” 米井 裕一

” 岡 能久

”(教育長) 浅香 久美子

4 欠席委員(2名)

教育委員 前川 信政

” 早川 芳子

事務局

教育次長(兼)学校職員課長

学校教育部長

(兼)市立工業高等学校教育改革推進室長

教育委員会担当部長(兼)教育総務課長

教育総務課担当課長(兼)課長補佐

学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐

教育委員会担当部長(兼)学校指導課長

学校指導課担当課長(兼)課長補佐

学校指導課主席指導主事

市立工業高等学校事務局長

生涯学習部長(兼)生涯学習課長

都市政策局担当部長(兼)歴史建造物整備課長

玉川図書館長(兼)近世史料館長

(兼)城北分館長

泉野図書館副館長

玉川こども図書館副館長

金沢西部図書館開設準備室長

教育プラザ富樫総括施設長

(兼)地域教育センター所長

(兼)研修相談センター所長

西崎 辰雄

横山 光雄

平嶋 正実

高村 政博

長谷 進一

上林 雅彦

山田 裕

山下 美奈子

詩丘 樹持

縄 寛敏

野島 宏英

森田 勝

廣田 康太郎

村田 健

石蔵 茂幸

川原 利治

5 案 件

議案第3号 平成23年度教職員研修の基本方針(案)について (教育プラザ富樫)

議案第4号 平成23年度使用金沢市立小・中学校「準教科書」の承認について

(学校指導課)

議案第5号 平成23年度使用金沢市立工業高等学校「準教科書」の承認について

(市立工業高等学校事務局)

- 非 議案第 6 号 金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会の委員の委嘱について
(歴史建造物整備課)
- 非 議案第 7 号 平成 23 年定例第 1 回金沢市議会提出予定案件について(教育総務課他)
- 報告第 4 号 「学校経営アドバイスBOOK」の発行について (学校指導課)
- 報告第 5 号 平成 22 年度語彙力金沢検定の結果について (学校指導課)
- 報告第 6 号 平成 22 年度児童英検及び英語能力判定テストの結果について
(学校指導課)
- 報告第 7 号 「キゴ山ふれあい・賑わい創出プログラム検討委員会」報告書について
(生涯学習課)

そ の 他

- (1) 平成 22 年度金沢市立小・中・高等学校卒業式の日程について
- (2) 平成 22 年度「全市児童生徒『絆』活動の日」について
- (3) 平成 22 年度中学校部活動の活動状況について
- (4) 教育プラザ富樫と大連教育学院の教育友好交流合意書調印式について
- (5) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

佐藤委員長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として岡委員を指名した。本日の議題について佐藤委員長が議案第 6 号、第 7 号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第 3 号、第 4 号、第 5 号、報告第 4 号、第 5 号、第 6 号、第 7 号、その他(1)(2)(3)(4)について説明があり、質疑応答が行われ、原案どおり可決・承認した。また、3 月の定例会議の開催日を次のとおり決定し、閉会した。その後、議案第 6 号、第 7 号について非公開で審議に入り、原案どおり可決し、閉会した。

* 3 月の定例会議の日程：平成 23 年 3 月 24 日(木) 13:30 ~

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

議案第 3 号 平成 23 年度教職員研修の基本方針(案)について(教育プラザ富樫)

(説明の概要)平成 23 年度教職員研修の基本方針と重点(案)について、まず基本方針だが、教師の「絆」を大切にしたい教職員研修を組織し、学校内 OJT への支援、学校経営のサポートを進めるとともに、先輩教師の教育技術を後輩教師に伝え若い教職員が育つこと、教職員のつながりが深まることで学校が元気になることを柱に、研修を積極的に進め、金沢市の教職員の資質・能力の向上を目指していきたい。

23 年度の重点事項は、「1.若い教師の指導力を高めるために『若手教職員研修』を充実させる」「2.若い教師の急増への対応、保護者・地域と連携した学校運営など、管理職の『経営能力を高める研修』を充実させる」「3.全教職員が発達障害への理解を深め、個の課題に対応する『特別支援教育研修』を充実させる」「4.学校を取り巻く環境の変化に起因する『さまざまな課題に対応する力を高める研修』を若手からベテランまで幅広く実施する」「5.悩みやストレスを抱える教職員の心の問題をサポートし、生き方を応援する研修を実施する」。

これらの重点事項を研修で具体化するために、主な具体化策として、学校へ出向いてサポートするなど「2 年目研修」をより充実させる。2 番目に、今は幼保小のつながり、幼児教育と学校教

育のつながりがいわれているので、小学校の初任教員全員に「1日保育体験研修」を実施する。特に4番、今年度から実施している金沢「匠」塾という、若手教員対象の土曜日に行っている希望制のゼミナール形式の塾が大変好評なので、この「匠」塾形式のものをもう少し増やし、先輩教師の教育技術を伝え、学ぶ場をつくっていききたい。また、5番目の「メンタルヘルス研修」「人間力向上研修」を新設したい。8番目、「匠」塾など先生方の自主的な研修をサポートしていくため、プラザ3階にある教育情報支援室をより使いやすいよう、ニーズに合った図書の実施と施設の一部改修により、グループでの活動がしやすいようにブースなどをつくっていく形で利用の促進を図っていききたい。

3ページは教職員研修の体系図である。採用からの年数に応じて行われる経年研修、職位に応じて行われる管理職研修、特別支援教育のための研修、主任などの職責に応じた職能研修、教科や新しい教育課題に対応する専門研修、派遣研修やふるさと研修などの特別研修が主に校外で行われる研修だが、同時に校内研修(OJT)や、教員自らが行う自己研修で形作られている。参考までに4ページには具体的な研修メニューを載せている。

米井委員

重点事項の1番が「若手教職員研修」となっていますが、それに該当するものが「具体化」の1番、2番、3番あたりになるのですか。

川原教育プラザ富
樫総括施設長

そうです。3ページの経年研修も、初任者研修、2年目研修、4年目研修というように、おおむね5年目ぐらいまでの間で、授業では一人前の教員として独り立ちできるように集中的に研修を行い、10年目には中堅教員として学校全体の経営にも携われるような教職員をつくっていききたいと考えています。「具体化」の中にありますように、実は初任者研修は学校に行くカウンセリングがすごくたくさんあるのですが、2年目についても要望に応じて学校に出掛けていくような研修を増やしていききたいと思います。

米井委員

2年目研修は新たにということなのですか。

川原教育プラザ富
樫総括施設長

2年目研修自体はありましたが、内容の充実を図っていききたいと思っています。

米井委員

2年目というのは、講師の方も対象になるのでしょうか。

川原教育プラザ富
樫総括施設長

この研修メニューはあくまでも正規教員ということになります。実は講師の方には講師用の研修も用意していますし、個別の研修の中で講師も含めて参加できる研修を今増やしています。

米井委員

講師の研修は別プログラムとして用意してあるのですね。分かりました。

柳下委員

私は特別支援教育のことで巡回相談に、いろいろ学校へ行かせていただいて、いつも感じるのですが、管理職の先生方のご理解がいま一つ不足していると言ったら大変失礼な話ですが。例えばノーマライゼーションとは何なのかとか、より基本的な、なぜ特別支援教育がこれだけ必要なのかというところのご理解が、いま一つうまく通じないところがあります。そのあたりの研修を重点的にお願いします。

川原教育プラザ富
樫総括施設長

このたびの重点事項の中で、「全教職員が」ということについて、こちらが考えた一つのポイントは、今ご指摘がありました管理職、それから教務主任、もちろん初任教員も、職位に応じた形での理解が必要だということ、それぞれの研修の中のメニューに入れるつもりです。併せて毎年校長会や教頭会などに、こちらから研究の委託をしているのですが、そういう委託のメニューにも特別支援教育の理解についてのものを取り入れて

いただきたいとお願いすることになっています。

佐藤委員長

やはりトップがこういう研修に対して理解を示して参加できるような環境づくりや、あるいは受講促進を先生方にしていただくという点は重要だと思いますので、徹底していただきたいと思います。

岡委員

今ほどご説明いただいた中で、「求められる教員像」と書いてあり、本当に理想的な素晴らしい、先生のあるべき姿が書かれていると思いますが、やはり昨年は不祥事など、一般常識では考えられないようなことが起きました。今年は特別研修で人間力向上やメンタルヘルスの方に力を入れていただければと思いますが、その辺について、より具体的な方策など、お考えがありましたらお話しいただければと思います。

川原教育プラザ富
樫総括施設長

研修のメニューとしては、今お話がありましたとおり、新しく「メンタルヘルス研修」「人間力向上研修」、これはどちらかというトラブルなど、いろいろある中で、自分のモチベーションをどうやって高めていくか、自らの能力をどのように引き出していくかというようなことを目指した研修で、こういうものを取り上げたいと思っています。

それだけではなく生き方を応援するということで、あらためて生きがいを感じられるようなこと。あと、やはり学校の中でのOJTにもそういうことを取り入れていただこうと、こちらの方で支援していますが、学校への支援メニューの中でも、そんなものをしていただく際にはこちらから講師などを支援することも考えています。

岡委員

本当にコマ以下の先生というか、人数の割合だと思いますが、一人でも二人でもそういうことがあると、本当に毎回先生方が謝っておられる姿を見ると心もとないので、そういうことがないように、またみんなで協力してやれればと思います。

佐藤委員長

基本方針と重点は毎年出されていると思いますが、特に今年、従来とは変わって新しく、あるいはこの中でも重点的にという、何か変えた項目はあるのでしょうか。

それと、これらの研修に対して、現場の先生方からのこういう研修をしてほしいという要請があって入れられたもの、それから要望は特にないけれども、教育委員会として現状を考えたときに、これはやはり必要だというものがあるだろうと思います。特に現場の先生方から要望があったものはどんなものかということ、この2点をお聞きします。

川原教育プラザ富
樫総括施設長

まず、今年度特に力を入れようということで例年と違うのは、一つは基本方針の中にも書いた、「教職員のつながりが深まることで学校が元気になること」を目指そうというのが新しい大きな柱になっています。その具体策としては、やはりここ何年間か、毎年大量に新採の先生が入ってきています。学校の中で世代間の交代が起きはじめているので、若手の先生が孤立しないようにということを含め、先輩教員と後輩教員との「絆」、そういうものを踏まえた上で、次のご質問にもつながるのですが、現場からは授業技術や実技、実践などの研修をしてほしいと。研修が終わると必ず全員にアンケートを書いていただいています。それをずっと集計していくと、やはりそういう研修を受けたいというのが、特に若い人からすごく多いのです。それを踏まえて、ここでは「具体化」の3番目に書かせていただきましたが、そういう実技・実践研修を全教科で行うことで充実を図っていきたいと思います。

それから、先ほど少しお話が出た人間関係などに対する研修ニーズが高いのです。子どもが人間関係をうまくつくれないので、子どもたちにそ

ういうことをどう教えていったらいいかという意味で、子どもに対しても人間関係づくりの研修をしてもらいたい、どのようにそれを子どもに教えていったらいいかという、難しいテーマですが、そのような要望も多いのです。

それから今は先生方と地域との問題、保護者との問題、いろいろな課題があります。そういう新しい課題に対する力を付ける研修というような要望も結構あります。

教育委員会が力を入れなければいけないと思っているのは、一つは特別支援教育の研修、それから2番の学校経営上の「経営能力を高める」という、リスクマネジメントや学校経営をフォローアップしていくような研修はこちらの方でぜひやっていきたいと考えて、今年は特にその辺の充実を図ろうと思っています。

浅香委員(教育長)

確かこの重点事項はかなり今年度新たに、今年度用に作られたものではなかったかと思えます。

川原教育プラザ富
樫総括施設長
佐藤委員長

そうです。この重点事項のうち、ほとんどが去年と違ってしています。

先ほど岡委員からもありましたように、いろいろな意味で現在、先生方を取り囲む環境が難しくなっており、新年度からの学習指導要領の変更等々、先生方はいろいろ大変なのだろうと思います。その中で、やはり先生方をサポートするような研修は、教育委員会としても非常に重要な事項だと思いますので、ぜひ現場の先生方の意見を取り入れながら良い研修ができるように努力をお願いします。

議案第4号 平成23年度使用金沢市立小・中学校「準教科書」の承認について(学校指導課)

(説明の概要) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地教行法)の第33条2項で「教育委員会は、学校における教科書以外の教材の使用について、あらかじめ、教育委員会に届け出させ、又は承認を受けさせることとする定を設けるものとする」と規定されている。これを受けて金沢市立小学校、中学校管理規則第14条で、「校長は、教科書の発行されていない教科又は教科以外の教育課程の主たる教材として授業に使用する図書(いわゆる準教科書)を使用する場合には、あらかじめ、次の事項を記載した書類に準教科書を添えて委員会の承認を受けなければならない」と定められている。これに基づき、小・中学校で平成23年度に使用する道徳の準教科書について承認を求めるものである。各学校では、おおむね12月上旬から2月上旬にかけて各教材会社より準教科書見本が送付されてくる。学年別や低・中・高別の選定会議を経て、校内の採択会議が開かれ、最終的に学校長が決定して申請するという運びになっている。

6ページの一覧では、小学校は5社、中学校は7社となっている。小学校ではBの日本標準とEの文溪堂、中学校ではAの暁教育図書が多くなっている。7~9ページは学校ごとの使用一覧で、「全」の記載は全学年で取り扱うという意味である。中学校では学年によって異なる出版社を使う学校が5校ある。昨年から変更となった学校は、小学校では長田町小学校、押野小学校の2校、中学校では鳴和中学校、森本中学校、高尾台中学校、港中学校の4校が変更の申請をしている。

(特になし)

議案第5号 平成23年度使用金沢市立工業高等学校「準教科書」の承認について(市立工業高等学校事務局)

(説明の概要) 来年度使用する「準教科書」4冊はすべて工業の科目で、機械科2冊、電気情報科1冊、土木科1冊となっている。4冊すべて今年度既に使用している準教科書で、これに取って代わるものは見当たらないので、継続利用をお願いしたい。

(特になし)

報告第4号 「学校経営アドバイス BOOK」の発行について(学校指導課)

(説明の概要)平成22年度から「学校教育金沢モデル」実践研修拠点校形成事業に取り組んでおり、今年度が最終年度である。本年度は「確立と発信」と位置付けており、実施校が取り組んだ成果や参考となる情報をメッセージとしてまとめて「学校経営アドバイス BOOK」を発行する。5校の研究校が研究したことを1冊にまとめるのは初めての試みである。これを発行して他校に発信・提供し、活用を図ることにより、全市的な学校経営の充実に資すると考えている。

この「アドバイス BOOK」は理論編と実践編から構成されており、理論編では学校組織マネジメントを高めるために必要な要素について基本的な考え方を記載している。実践編では、実施校の取り組みから、「人材育成」「特色ある教育」「学校評価の充実」の三つの観点について実践的な内容を記載している。

25ページには各学校に書いていただいた内容を記載している。26ページは「人材育成」について明成小学校が作成した、教師コミュニティ「明成塾」の項目である。各項目を2ページで簡潔にまとめ、写真や図を多用して分かりやすく表現している。冒頭にはキーポイントを設け、内容を把握しやすくし、右下には「Coffee Break」というコーナーを設けて親しみやすくしている。

3月には完成させ、各学校に配布したいと思っている。各学校では実践的な参考書として、必要なときに気軽に見たり開いたりしながら効果的に活用できるようにしていきたい。

佐藤委員長

これは各学校でそれぞれ実践された結果を、項目に基づいてまとめられたものだろうと思いますが、教育委員会の事務局としてこれらを見られて、どのような注目すべき点があるか、あるいは共通点があるか、あるいはこのようなものは特に全体の学校で進めていったらいいのではないかと、出てきたものに対しての事務局としての評価、感想等があったらお聞かせいただきたいのですが。

上林学校指導課長

こういう参考的な資料はいろいろ市販されていますが、より現場に密着した内容のものができるかと思っています。例えば「人材育成」の小立野小学校では、職員会議をどうすれば効率化できるかといった観点に沿って、具体的なものが出ているという印象を持っています。また、今お示しした教師コミュニティ「明成塾」などでは、具体的に学校のOJT体制を実践したものが出ているので、これは理論だけでなく、各学校の実践に基づいたものなので、すべての学校でやればできるかなという意識を持ったり、よりヒントをもらえる内容ではないかと思っています。

今言われている学校評価についても、学校関係者評価については他の学校に先駆けて行っていただきました。これから取り組む学校にも、大きな参考になる部分もあるかと思っています。より実践的で、各学校が実際に取り組んだということで、他の学校には大きな影響、あるいは良い参考となるのではないかと考えています。

佐藤委員長

これは教育委員会としてのいろいろな学校指導の中でも生かされていく、一つの参考になると思います。これはいいというものが何かあれば、教育委員会としても積極的に共通指導の中で話をさせていただくような方向も大切だと思いますので宜しく願いいたします。

すなわち、各学校で各自参考にしていただくだけでなく、教育委員会としての評価をして、よいものは共通化していくような方向付けも大切かと思っています。

せっかくこれだけいろいろな良い実践報告がなされているので、各学校でより有効に活用される、あるいは積極的に活用されることを願います。

米井委員

第2章以降は各モデル校で研究されたことを一つ一つの項目に沿って紹介してあるというか、ポイントをまとめて書いてあると理解していいのですか。

上林学校指導課長

この5校の実践拠点校について、自分たちでこういう項目を考えながら、他にお知らせすればいいなという項目についても自分たちで考えていただいたので、その5校でぜひ市の他の学校へ発信していきたいという内容の項目を選んでいただきました。

米井委員

これはほかの学校の人たちが見たい、知りたいということに関しては、ほとんど網羅されているという評価はされているのですか。

上林学校指導課長

大体網羅されていると思いますが、これ以外のこともあるかもしれません。この各学校がそれぞれ三つの視点について、重要だと思うことを選んでいただいたので、ほかの学校から見ても参考になる面は多いと判断しています。

米井委員

あまり時間もないのですが、ぱっぱっと見ていくと、それぞれ多分どこかの学校でやっているのだろうなというページで、分かるところと分からないところがあるなという感じがしました。これはどこの学校でやったのか、はっきり書いてあるところと、書いていないところがあるような気がしたので、必要であればもう一度チェックされてもいいのかなという気がしました。目次には書いてありますから、それはそれでいいのですが。

先ほどの質問で、すべてが網羅されているか、されていないかというのは、見る人の評価もあると思いますが、委員会事務局の方で、もしこれが必要だということであれば、何かつなぎというか、補足があってもいいのではないかという気もします。これはページをいたずらに増やすということではなく、全体の中の位置付けであるとか、そういった意味でもう少し補足的な説明もあってもいいのではないかと、ぱっと見た瞬間の話ですが、そういう感想を持ちました。

報告第5号 平成22年度語彙力金沢検定の結果について（学校指導課）

（説明の概要）語彙力金沢検定は児童生徒の国語力向上の基となる言語知識に対する興味関心を喚起し、定着を図り、豊かな国語力を育成することを目的として平成18年度から実施してきた。対象は小学校5年生と中学校2年生で、受検者数は30ページに記載のとおりである。出題範囲は教科書等で学習したものが中心となっており、漢字の読み書き、言葉の意味、敬語、仮名づかいなどの中から50問出題している。今年度は去る1月20日に各学校で実施された。今回は実施5年目にして初めて、過去に出された問題を出題した。なお、過去4年間の問題は既に金沢市のホームページにも公開している。

採点結果だが、小学校の平均正答数は40.8問で、40問以上の正答者には1級の認定書を渡しているが、その割合は65.8%となっている。中学校では平均正答数は38.0問で、認定者は49.1%となっており、いずれも問題が変わっているが、昨年度と比べて良好な状態になっている。

全体の状況を見ると、小学校では過去に出された問題はおおむね良好であり、領域別では敬語の正答率が高い傾向にあった。中学校でも過去に出題された問題は小学校同様おおむね良好で、領域別では接頭語、接尾語の正答率が高い状況にあった。昨年度との比較でいえば、例えば小学校の問題で、読点を「とうてん」と読むことを知っているかという問いでは、平成20年度は14.0%と非常に低かった。以後、指導の充実が図られたと思うが、今年度は47.0%まで向上し、そのように極端に上がった項目もある。中学校で一つ問題を出すと、「さしずめ」の意味を問う問題があった。これは選択だが、今年度は50.4%となり、21年度と比べ、10ポイント以上向上した。

語彙力検定は受けることが目的ではなく、その学年で身に付けるべき言語知識を、その学年を終えるまでに身に付けるという意識付けを図っていくことが目的である。一番下のグラフをご覧ください、1級認定に至らなかった児童生徒には学校で再度同じ問題にチャレンジさせて1級認定を目指すよう指導している。その結果、過去3年間の再検定での1級認定率は、小学校ではほぼ100%近くに上がっており、2回、3回と利用する学校もあるのではないかと考えている。

今後の取り組みとしては補充学習等を実施し、全員が1級に到達するよう指導する。また、各学校で学級間格差や児童生徒の設問別正答率の傾向の把握等を行い、今後の指導を組織的に検討するなどして対応する。検定問題は金沢市のホームページに掲載し、各学校で活用できるようにして語彙力の向上を図っていききたい。

米井委員

中2の1級認定通過率が、19年、20年、21年と、年を追うごとに非常に高くなってきています。21年度は85%くらいでしょうか。これは何か指導方法に工夫を凝らしたとか、そんなことはあるのでしょうか。

上林学校指導課長

先ほど申し上げましたように、二度、三度と子どもたちに指導しながら、もう一度チャレンジさせるという試みが増えてきたのではないかと考えています。放課後を利用したり、国語の時間を利用しながら、間違えたところを直して、自分でしっかり学習した後でもう一度チャレンジさせるという学校が多くなってきたと感じています。

米井委員

要するに指導にかかる時間が非常に増えてきたという感じですか。

上林学校指導課長

それもありますし、正答の内容を子どもたちに教えますので、子どもたちが自分でもう一度勉強し直して、チャレンジさせるといったことが多いのではないかと思います。

佐藤委員長

グラフを見ると、小学生と中学生とでは少し傾向が違うというか、中学生の場合は1回目だと、20年度と21年度はあまり変わらないというような結果でしょうか。再チャレンジしたらある程度、21年度では85%くらい取っているようですが。一般的に試験は1回しかないの、これはやはり1回目でもっと努力するよということをおいの方が多いのではないのでしょうか。

報告第6号 平成22年度児童英検及び英語能力判定テストの結果について（学校指導課）

（説明の概要）児童英検は児童の英語学習への積極的な態度を育成するとともに、英語力の定着度を確認し、指導の改善に役立てるために実施している。今年度は1月11日～14日の間で金沢市立の小学校6年生すべてに対して実施した。受検したグレードはシルバー（中級程度）で、17年度からの結果を載せている。今年度は市全体の平均正答率、平均正答率が80%を超える学校数、あるいは児童数の割合は、昨年度を上回る結果となった。市全体の平均正答率82.5%は過去最高である。児童の考え方を大切に、主体的に学ぶ意欲を育てる工夫などを学校が考えて行った成果かと思われる。

英語能力判定テストは昨年12月13日～18日の間で、金沢市立の中学校3年生すべてに対して実施した。その結果、英検3級以上のレベルがあると思われる生徒は39.7%と、昨年度を2.8ポイント下回った結果となった。過去4年を見ると大体40%前後で推移している。今後は24年度からの中学校の新学習指導要領の実施に合わせ、小中一貫カリキュラムの改定や、指導の一層の充実などを行い、小中一貫英語教育の充実を図っていききたい。

佐藤委員長

これは金沢市が英語特区をやって、いろいろ努力を積み重ねてきた成果だと思いますが、これはほかの地域、県、あるいは市等でもしているの

しょうね。それとの比較や傾向はどんなものなのでしょうか。

上林学校指導課長

これは石川県の中では金沢市だけでしているもので、他の県でもそんなに多くはしていないと思います。3 級程度が認められるというような問題を利用させていただいています。

佐藤委員長

グレードというのも金沢市で決めている評価なのですか。

上林学校指導課長

金沢市独自の基準ではありません。問題を作った会社が大体そのレベルであると判断しているものです。

佐藤委員長

それをしている地域がどういう状況かというデータはないのですね。

上林学校指導課長

ありません。

佐藤委員長

当然それだけの成果が得られているのだらうと思いますが、また何かの機会にそういうデータとの比較ができれば、金沢市の英語教育の特徴をアピールするのに、よりいいかなという感じがします。

報告第7号「キゴ山ふれあい・賑わい創出プログラム検討委員会」報告書について（生涯学習課）

（説明の概要）平成19年11月に旧放牧場が閉鎖されたことに伴い、その跡地利用についてはこれまでも散策路やあずまやの整備、子ども用遊具や美大生の彫刻の配置等を行ってきたが、キゴ山にさらなるふれあいと賑わいの空間を創出したいと考え、昨年この検討委員会を設置し、1年をかけてその在り方について検討を行ってきた。委員会は昨年6月に第1回目の会合を開き、以来4回にわたり開催、今年1月20日に市長に報告書を提出した。

基本方針はキゴ山の特色である「自然と宇宙」をコンセプトに、一つはハードよりもソフトに重点を置いた「ソフトプログラム」の充実と継続できる運営体制の維持、二つ目に子どもから高齢者の方々まで多世代にわたる市民がキゴ山の自然に触れることができる賑わい空間を創出すること、以上の2点である。この基本方針を基に「賑わい」「情報発信」「つなぐ」という観点から、三つの具体的な実践プログラムが提案された。

「賑わい」という点では、まず「四季折々のプログラム」として、仮称「キゴ山学校」を開設しての自然や特色を生かしたイベントの実施、二つ目に「宇宙・天体」では、天体観察センターのリニューアルや宇宙塾10周年記念事業の開催、三つ目に、広々とした牧草地やパノラマ景観を生かした全天候型のワクワク・ドキドキするようなイベントの開催、四つ目にキゴ山ブランドの創生が提案されている。

「情報発信」という点では、キゴ山の魅力を発信するためにホームページの刷新、テレビ・ラジオスポットの活用、キゴ山PRキャラバン事業など、キゴ山を広く情報発信するためのプログラムが提案されている。

「つなぐ」という観点からは、キゴ山の豊かな自然を保全して次代へつないでいくため、大学、企業、学校教育との連携によるイベントの開催や、環境保全活動の実施、施設の個人利用の拡充などが提案されている。今後は報告書の提言を踏まえ、できるものから順に具現化していきたい。

佐藤委員長

これは放牧場がなくなったことを機会に、よりキゴ山の有効利用というかが、活用を検討しようというお話かと思います。これまでキゴ山の利用とか活用に対して、どんなことが課題になってきているのか、あるいは問題になってきているのか。この検討委員会の中では当然現状分析もされているのではないかと思います。どんなことが今問題なののでしょうか。

縄生涯学習部長

検討会の意見の中で出たのは、施設面では少年自然の家、ふれあいの里があります。そういった面は十分に整備されているので、ソフト面の戦略が重要な鍵であるということが一つありました。もう一つは四季折々のプログラムということで提案させていただいていますが、特に冬の行事、現在も動物の足跡を探すアニマルトレッキングや、かんじきを履いたハイキングなどをしていますが、冬にはなかなか人が集まらないので、今後は冬のイベントを考えるとともに、隣にある市営スキー場との連携等も考えていかなければならないのではないかと考えています。

それから、広大な土地ですが、せっかく来ても雨の日やかんかん照りの日など、そこで休む場所がないことと、ちょっと行って何かしたくてもできないということもあるので、いつ行っても何かができるようなプログラムの作成が課題として挙がっていました。こういうものをこれから来年度、再来年度にかけて、少しずつ解決していけたらと思っています。

佐藤委員長

私もキゴ山はよく行くのですが、金沢から車で20分か30分ぐらいで行ける、自然豊かないいところだと思っています。ぜひ利用が増えるようないろいろなプランを実施していただければと思います。

米井委員

感想なのですが、この資料もすごく分かりやすいし、いわゆる行政の施設というところから一歩抜けたなという感じの印象を持ちました。そういう意味で、企画がこれからもっと外に向けて、前へ出るような形で運営してってもらいたいと思いますし、非常にセンスがいいと思ったのも、サインの設置ということで、わくわくする、確かに写真が小さくてよく分からないですが、恐らくこれはいいセンスのものがあるし、こういったものはある程度お金をかける価値はあるという感じがしました。何を指すかというところを、もっと高いところに持って行っていただいて、山の中にある21世紀美術館ぐらいの位置付けを目指していただきたいと感じさせてくれる報告でした。頑張ってください。

その他(1)平成22年度金沢市立小・中・高等学校卒業式の日程について

(説明の概要)今年度の卒業式の日程として、中学校は3月12日、小学校は3月15・16日である。市立工業高等学校は全日制が3月4日、定時制が3月5日である。中学校ではこれまで平日に実施してきたが、校長会等とも協議し、より多くの保護者が列席するよう、今年度は土曜日の開催で進めている。

(特になし)

その他(2)平成22年度「全市児童生徒『絆』活動の日」について

(説明の概要)金沢「絆」教育の推進のため、これまで「全市児童生徒あいさつの日」「ボランティアの日」を設定し、小中学生全市一斉で取り組んできた。今年度は新たに1月28日に「全市児童生徒『絆』活動の日」として、各学校が工夫して、学校、家庭、地域が連携した絆を深める取り組みを実施した。特色のある内容としては、地域のパトロール隊の方々など、お世話になった方々を招いての感謝の会を開催した学校、絆を深めるための「わくわく音楽コンサート」を開催した学校、小中連携してあいさつ運動を実施した学校、絆を深めるために体育館で人文字を作成した学校など、各学校で工夫のある取り組みをしていただき、地域と連携協力できた、児童生徒の企画が生かされたという報告も受けている。全部で5000人弱の保護者、地域の方々にご協力いただいた。

佐藤委員長

今の報告によると、この内容としては、特に小学校ではあいさつ運動が非常に多かったということですが、あいさつ運動の日も設けてあるので

よね。そのあたりの違いというか、すみ分けというか、その辺はどのように見たらいいのですか。

上林学校指導課長

今年度は5月に「あいさつの日」を設定しました。「『絆』活動の日」は学校が考える「絆」活動ということで、あいさつ運動から一歩進んで、地域の方と連携してできるようになった、あるいは小中が一緒になってやった、中には複数のものを行ったという学校もあります。朝だけではなく1日のあいさつを考えて実施した、児童会や生徒会が中心になって行ったというようなこともあり、やはり「絆」という観点でいくと、あいさつを基本に考えている学校が多いように思います。

佐藤委員長

複数やって、特に共通的なものとしてあいさつ運動があるというのは理解できますが、一応金沢市としては「絆」教育を基盤に置くことをかなり大きなテーマとして掲げているので、絆の在り方というか、この活動の日の在り方について、もう少し何か視点を考えていただく機会にできればいいかなという感じがします。

その他(3)平成22年度中学校部活動の活動状況について

(説明の概要)運動部の状況が37ページに出ている。全国中学校体育大会では相撲競技の西南部中学校の準優勝、鳴和中学校生徒の準優勝といった成績になっている。北信越大会でも、西南部中学校が相撲、清泉中学校が水泳で優勝という結果になっている。北信越、全国大会での主な成績は資料に載せたとおりである。

38ページは文化部の活動である。文化部の活動も大変幅広い面で良い成績を出している。特に額中学校の吹奏楽部は全日本吹奏楽コンクール全国大会に金沢市の中学校で初めて出場し、銀賞を受賞したという大変喜ばしい結果となった。こうした受賞は生徒の大きな励みとなり、後輩の目標となるものである。今後とも部活動の一層の活性化に取り組んでいきたい。

佐藤委員長

市独自でそういうスポーツや文化活動について、積極的とか、あるいは優秀な成績を出した生徒や学校等を表彰したり、評価するものはありましたか。

上林学校指導課長

市独自としては、夏休みの科学作品コンクールをはじめとして、中学生には高峰賞、宮村英語(奨励)賞、岡文化賞等もあります。また、市民スポーツ課で優秀なスポーツ選手の表彰制度も設けています。小学校では創作文コンクールなどを市独自の表彰項目にしています。この表に載せたのはそれ以上の、県大会以上のものです。

佐藤委員長

これは中学校だけのものがまとまっているのですね。こういう良い成績、あるいは良い活動を促進するという意味も込めて、教育委員会としても何か表彰するようなことも。個々の賞はあるようですが、全体をまとめた何かがあってもいいのではないかという気もしました。

その他(4)教育プラザ富樫と大連教育学院の教育友好交流合意書調印式について

(説明の概要)2月12日(土)大連市から、こちらでいうと教育センターに当たる、教育学院の院長をはじめとする一行が来日され、教育プラザにおいでになった。教員の研修などについての相互の交流、それから教育相談についてもいろいろな形でお互いに交流したいということで、基本的な交流に関する合意書の調印をこちらの院長と私の方でさせていただいた。既に英語教育についての交流をしているが、研修や教材について、お互いの利益になるような具体的な交流ができればと思っている。

[非公開議案の主な質疑・応答の内容について]

議案第 6 号 金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会の委員の委嘱について（歴史建造物整備課）

金沢市伝統的建造物群保存地区保存条例第 10 条の規定により、下記のとおり金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員を委嘱します。

1 委員の委嘱

	氏 名	役 職 名	新再任の別
知識経験を有する者	浅田 裕久	金沢商工会議所	再任
	高川 順正	石川県建築士会	再任
	川上 光彦	金沢大学理工研究域教授	再任
	黒川 威人	金城大学短期大学部教授	再任
	中村 明子	弁護士	再任
	平井 聖	昭和女子大学特任教授	再任
	増田 達男	金沢工業大学教授	再任
	屋敷 道明	金沢市文化政策調査員	再任
	横山 方子	石川郷土史学会	再任
関係地域を代表する者	金谷 武彦	東山親和会会長 金沢東山・ひがしの町並みと文化を守る会会長	再任
	松村 光雄	主計町町会会長	再任
	中村 玲子	東料亭組合	再任
関係行政機関	岡田 義彦	石川県教育委員会文化財課長	再任

2 理由

任期満了に伴う再任

3 任期

平成 23 年 3 月 1 日から平成 25 年 2 月 28 日まで

議案第 7 号 平成 23 年定例第 1 回金沢市議会提出予定案件について（教育総務課他）

審議結果についても非公開